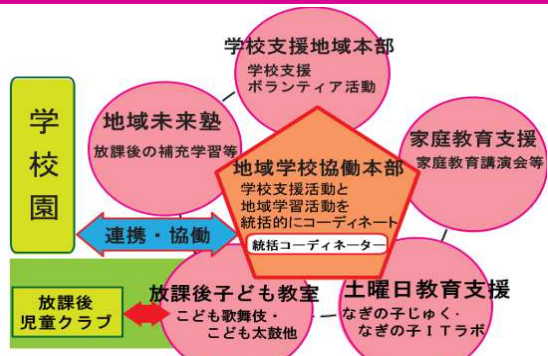


学校と地域の連携（学校支援地域本部等）の新たなステップ 「支援」から「連携・協働」への第一歩

平成27年度の国の答申では、「地域学校協働本部」という新たな方向性が示されました。地域による一方的な学校支援ではなく、子供の育ちを共に支えるパートナーとしての体制づくりが求められています。管内の好事例を紹介します。

- コーディネート機能の充実
- 目標やビジョンの共有
- 双方向の連携



奈義町地域学校協働本部イメージ



美咲町立中央中学校



地域ボランティアによる指導
(地域から学校へ)



「桜祭り」での踊りの披露
(学校から地域へ)

新庄村立新庄小学校

核となる地域コーディネーターが学校支援以外の活動と連携することで、より多くのボランティアの確保が可能になっている。結果として、継続的で組織的な支援体制づくりが進んできている。

学校と地域の顔合わせ会で、「生徒の現状や課題」、「課題を克服するための活動のねらい」などを共有し、子供の育ちを支えるパートナーとして、両者が主体的に活動に参加している。

総合的な学習の時間に「傘おどり」を学んだ子供が、「桜祭り」で踊りを披露する。地域が子供を元気にし、元気になった子供が地域を元気にする双方向の連携ができています。

新たなステップはここから！！

- 2学期以降の活動計画を地域と学校で共有
- 活動のめあての共有やふり返りの場を設定するなどの工夫
- 児童や生徒が地域から学んだことを地域に発信(地域行事等への参加)する活動
- 児童や生徒の支援に関わる様々な団体等からのボランティアの発掘